



茶内小だより

茶小の教育目標 ○思いやりのある子 ○自ら鍛える子 ○進んで学ぶ子

日常の教育活動につきましては、学校ホームページをご覧ください。



<https://www.townhamanaka.jp/chan>

2月行事予定

日	曜	学校行事・PTA行事など
1	土	
2	日	
3	月	スケート授業公開週間
4	火	午前授業(給食あり)
5	水	みんなの広場
6	木	放課後学習 たてわり班清掃
7	金	茶中体験入学(6年生)
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	祝 建国記念日
12	水	
13	木	たてわり班清掃
14	金	児童委員会
15	土	算数検定(浜中中)
16	日	
17	月	
18	火	新一年生入学説明会
19	水	
20	木	茶中乗入授業 放課後学習 たてわり班清掃
21	金	児童委員会(最終)
22	土	
23	日	祝 天皇誕生日
24	月	振替休日
25	火	
26	水	
27	木	たてわり班清掃
28	金	
29	土	土曜授業日(参観・六送会・懇談会)

浜中町ホームページに「きょうのリンク」が開設されました。ご活用ください。



次の学年を意識して

校長 佐野 万由里

新年明けましておめでとうございます。

保護者の皆様、地域の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年、時代は平成から令和に変わり、新たな年を迎えました。2020年は東京オリンピック、パラリンピック競技大会が開催され、新しい学習指導要領が全面実施となります。子どもたちが未来の社会を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む学校教育を目指していくことになります。残り3ヶ月間は、新年度に向け、確認をしながら、次の4点について準備をすすめていきたいと思ひます。

- ①社会に開かれた教育課程の実現
- ②資質・能力の3つの柱
- ③カリキュラム・マネジメント
- ④主体的・対話的で深い学びの充実

さて、1月15日から3学期が始まりました。子どもたちはクリスマスやお正月に家族や親戚の方々と楽しい時を過ごし、心身ともに成長し学校に戻ってきました。新しい年の始まりの1月ですが、3学期は48日間(6年生は46日間)と一番短い学期であり、1年を締めくり、次の学年に向かって準備をする大切な時期です。

そこで、始業式には、「学校のきまり、生活のめあてを一人一人が心がけ、クラスみんなで声を掛け合いが気をつけ合えるようにしよう。」「今、何をすべきか気付き、周りの様子を見ながら、考え、行動する」ことが大切であると伝えました。このような姿が、日々のあいさつや授業中の態度や姿勢、掃動活動など様々な学校生活の中で現れることを期待しています。

そして、3学期で6年生は、小学校生活の全ての課程を修了し4月から中学校へ進学します。悔いのないように最後のまとめをしっかり行い、充実した卒業式を迎えてほしいと思います。4月から5年生は、学校のリーダーとして6年生からのバトンを引き継ぎ、最高学年となります。4年生は高学年の仲間入りをし、学校のために力を発揮し、1~3年生はそれぞれ進級し、学級や学年のために頑張ります。ですから、3学期は子どもたちが担任の先生と力を合わせ、「励まし合い、認め合い、協力し合い」楽しい学級を目指してほしいと願っています。

最後になりますが、教育委員会の職員の方々に年末や年明けの作業に多くの時間をかけていただき、茶内リンクが1月10日にオープンしました。PTAの皆様にも2月初旬まで、リンク散水作業のお手伝いをしていただくこととなりますが、子どもたちの教育活動のために、ご協力をよろしくお願いいたします。保護者並びに地域の皆様方には、今学期も温かなご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



【2/29(土)の参観日】

今年は、土曜授業として、授業参観・六送会・懇談会を実施します。6年生にとっては、最後の集会活動になります。また、お世話になった6年生への感謝の気持ちを各学年で表現しますので、ぜひご覧ください。また、六送会後は、学期末最後の懇談会もあります。どうぞよろしくお願いいたします。

学校評価アンケートの結果から

11月末に実施した学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。全体的な傾向としては、1学期末実施のアンケートよりも高評価をいただきました。しかし、保護者の皆様からは「家庭学習習慣」「テレビ視聴・ゲーム時間」について、課題が見られました。教職員からは、「基本的な生活習慣の確立」「運動を好む子の育成」「主体的・対話的な学習」についての課題があがっていました。茶内小の子どものために更なる取組の必要性が問われる結果となりました。今回の学校便りでは、成果を中心に述べ、課題につきましては、取組の方向性を示させていただきます。

1. 取組の成果

教職員、保護者ともに「思いやりのある子」の育成に関わる評価の平均値が1学期末よりも向上していました。次のような保護者の声がありました。
・あいさつが敬語バージョンで言うようになっており、おどろきました。また、先日の講演ですすめられたハイタッチを校長先生が実践してくださっていると子ども達から聞きました。照れくささはあるようですが、校長先生をより身近に感じられるようになったようです。
・男女問わず友人関係で「楽しい」と口にするが増えました。
・ふてくされる子に対して責めず何度も声をかけていたり、大会でも高学年のチームが差のありすぎる3・4年生チームにサーブをあえて外したり、アウトだと分かっているのに返したりとさりげない気遣いをしていて感動しました。

【学校としての取組】

「思いやりのある子」は、肯定的な雰囲気の中、具体的に行動してみて、人との関わりの中で自分自身と相手の気持ちを見つめ直し、さらによりよい行動をしようとするのできる環境で育つようです。

○朝のあいさつ運動

はじめは、校長先生が玄関で登校してくる児童へあいさつとハイタッチの取組をしていましたが、児童会の活動に発展しました。今では、あいさつの輪が広がり、玄関前に出て出迎える児童が増えました。

○たてわり班を生かした活動

本校では、たてわり班清掃だけでなく、児童委員会企画の集会活動でたてわり班を生かしたゲームをしたり、「良いところを見つけよう運動」があります。また、休み時間になると、高学年児童が低学年児童と楽しく遊ぶ姿がよく見られます。

○学年の枠を越えた授業交流

最近では、スケート学習があげられます。上級生が下級生に対して手本を示そうとする姿勢、「大丈夫、大丈夫」と優しく声をかけたり待つてあげる姿勢等が養われます。

学年ブロックでの学習例は次のとおりです。

- ・低学年～「学校探検」「運動会」「遠足」「子どもまつり」「スケート」等
- ・中学年～「運動会」「遠足」「サッカー」「ミニバレー」「マラソン」「マット・跳び箱運動」「スケート」等
- ・高学年～「運動会」「宿泊研修」「跳び箱運動」等

○高学年と低学年の交流

7月に6年生企画として1年生と一緒に「じゅうじかおに」「ふうせんバレー」をすることがありました。6年生

は1年生を楽しませるための方法を考え具体的に動きます。1年生は、学校生活の楽しみが増えます。6年生との心のつながりも強くなります。また、こうした活動は、6年後に生かされていくことにつながっていきます。

○道徳科の授業の充実

道徳科を授業づくりの重点として取り組んできました。特に「考え・議論する」に焦点を当ててきました。子どもたちは、1つの出来事や考え方に対して、いろいろな角度から意見を述べるようになってきています。今後は、道徳科だけに閉じることなく、各教科・領域等での道徳的な学びを積み重ねていくことができるようにしていきます。

2. 今後の見直しの方向性

本校の教育活動において、3.5pt以下の項目は次のとおりです。この5点は、家庭・地域の協力を得ながら、改善していく必要があります。

①メディアの利用時間、ルールの確立	2.89pt
②主体的・対話的な授業づくり	3.21pt
③規則正しい生活習慣の確立	3.36pt
④体力向上の取組	3.43pt
⑤家庭学習習慣の確立	3.47pt

①③④⑤は相関しており、解決に向けてのアイデアを出し合うところから始まります。例えば、メディアの利用を2時間以内までにする事については、PTA発信で取り組む内容となっています。各家庭で取り組めることは、時間の制限をする一方で、メディア利用が2時間以内にならざるを得ない状況を作るということも大切です。家庭学習の時間の確保やお手伝いの内容を設定することで、①については解決の方向につながっていくと考えます。また、単P研等でメディア利用に関わる講演を設定し、茶内小PTA全体で意識を高めていくことも大切な視点です。

②については、次年度の先生方の最大の課題となります。しかし、今年度までの2年間で道徳科の授業づくりを通して、「主体的・対話的な授業」の視点を学びましたので、他教科・領域等でも同様に取り組んでいくようになります。現在、浜中町内の全教員で各教科の年間指導計画を作成しているところです。

○いじめ問題について

報道・新聞などで、いじめの認知件数が社会的に話題になっています。過去最多という部分だけを聞くと、いじめが増えているように感じるところです。毎年、「いじめアンケート」を2回実施しており、茶内小では、31件を認知しました。この31件の中には、ちょっとした悪ふざけやからかいも「いじめの芽」として含まれています。

大切なことは、事態が大きくなる前に対応することです。学校としての課題は、いじめアンケートの実施で、「いじめの芽」等が見つかることが多いということです。ですから、家庭でお子様と会話をする中で、雰囲気違和感を感じた時やいじめにつながる事実があった時に学校に報告・相談をしていただくと大変助かります。そうしていただくことで、重点をかけて子ども達を観察したり、話を聞いたりすることができます。今後ご協力をよろしくお願いいたします。

新学習指導要領 完全実施に向けて

いよいよこの4月から新学習指導要領が完全実施されます。平成29年から本校では、少しずつ準備を進めてきました。プログラミング教育については総合的な学習の時間に位置付け、既に進めてきています。外国語については、令和2年度を見越して、中学年35時間、高学年70時間で教育課程を編成して実施する中で、確実な時数確保の検証を続けています。特別の教科道徳の準備も整いました。また、各教科の年間指導計画についても3学期中には整備されます。

さて、今回の新学習指導要領の改訂の目玉は、「**社会に開かれた教育課程**」の実現です。少しわかりやすくすると次の3点になります。

- ①よりよい社会を創るとい**理念を学校と社会が共有**すること
- ②必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるのかを明確にすること
- ③**社会との連携及び協働により実現**を図っていくこと

これまでの学校の姿と少し変わってきます。茶内の子どもたちの目指す姿を茶内中・保小中PTA・地域の方々等と検討したり、教育活動に関わっていただいたり、評価していただいたりするという事です。これは、学校の教育活動を地域全体で応援する今年度から始まった学校運営協議会の姿に似ているところがあります。

【茶内コミスク便りNo.2(9/25発行)より】

～茶内地区で目指す子どもの姿～

- ①地域にほこりをもてる子
- ②自分で考えて、発信できる子(主体性のある子)
- ③場に応じた礼儀正しい子

この目指す子どもの姿をよりどころに、学校運営協議会にて地域行事の在り方や学校教育への関わりを考えていただきました。次年度に向けての改善点も既に検討していただいています。

学校が特に力を入れて取り組むべきことは、「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善です。「**教科等の学習と社会をつなぐ**」という視点を大切に、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を鍛えていくような学習過程の構築をしていきます。